

額田さんの今年の独立展

野口幹夫

2023-10-19 国立新美術館で開催中の独立展で額田さんの作品を見てきました。



ミザンテフェリ・白い樹

会員 額田晃作

200号

今年の200号の大作もテーマはエチオピアの田舎とそこに住む人々でした。ミザンテフェリとあるのはエチオピア中南部の地方の名前のようです。2021年の作ラリベラの方は水谷さんが紹介してくれました。ラリベラは世界遺産の岩窟の教会があるので有名な場所ですが、額田さんの絵は世界遺産には関係なく、そこに生活している平凡な人々を描いておられました。今年のミザンテフェリは有名なものは特になく田舎町のような感じです。絵の中央にある白い樹が印象的ですが、全体として黒い沈み込んだ色調です。

額田さんはずっとエチオピアの人々を描いてこられました。中央に立つ背の高い女性、左に寝そべる女、右に座り込む男とその横の二人、彼らは特徴的な衣を羽織っています。馬とともにいかにもエキゾチックです。

一転してその向こうに描かれている家族のような4人と左の荷を背負った二人は日本の田舎にもいそうな人々たちですね。

エチオピアは世界最古の国の一つ長い歴史を持ち、他民族の集合で、古い習慣を大切にしながら生きている国だそうです。額田さんが愛してやまない気持ちが、これまでの作品でも、そして今年のこの作品でも感じられます。しばらくは、ただ たたずんで眺め、今後のご活躍を願いました。